

農作物への鳥獣被害対策について

〔質問〕農作物への鳥被害が問題になつてから久しいが、依然被害は拡大している。猿・熊・カモシカ・ハクビシンなどに加え、カラスやスズメなどの野鳥も稻・大豆・野菜に被害を与えてる。さらには、近年はイノシシの被害も広がっており農家を悩ませている。このため、耕作をあきらめる農家もいるほど問題は深刻化している。

防護策として、花火で威嚇、電気さく・防除ネットの設置をしているが、いずれも決め手になつていらない。銃器による駆除は有効だが、鉄砲を使用するには、免許が必要になる。

よつて、これらの被害に対して今後どのように

【その他質問】
○小中学生の熱中症対策について
か伺いたい。
【答弁】市長】野生鳥獣による人畜及び農林作物への被害が拡大している中で、永続的な農林業生産振興による経営安定と市民生活の安全を図ることが必要であると考えている。
一つ目の対策として、個人及び集落内の農林業者で組織する団体が行う電気さく設置等、害防止対策に要する経費について、5万円以上20万円以内の2分の1を助成している。また、8連発の花火やロケット花火を配布して

威嚇発射による追い払い、田んぼ・畠周辺の下刈りを行い、隠れ場所をなくすようにお願いをしている。

川原子ダムの自然環境を守る

〔質問〕初夏の新緑

〔答弁〕〔市長〕川原子

秋の紅葉、湖面に写る
逆さ不忘の山並みは川
原子ダムの絶景と言ふ
る。

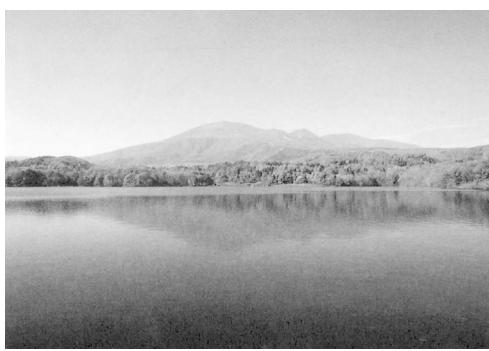
ダムは昭和44年に農業用水施設として整備された。平成19年度より冬期間ダムの水を放流

そんな魅力や自然環境の大切さを知つても、
らおうと湖畔の廃屋を借りて「自然塾」を開
いている方もいる。

し、底干しを行つてい
る。これは、氷上釣り
を防止する対策として
行つてゐる。

は水質も良好で他に類を見ない生育を遂げている。しかしここ数年秋から冬にかけダムの水はほとんど抜かれ、何とも奇妙な光景となる。自然な形で環境を守るダム本来の姿である。あってほしいと思うが、市長の見解を伺いたい。

する人が多く見られるようになつた。大変危険な状況であることが明らかに判明した。警察からその対応策を求められ、警察・土地改良区等と川原子ダム氷上釣り対策会議を開催し、釣り禁止の看板の設置、進入路の閉鎖等の対策をとつてきました。しかしながら、マナーの悪い釣り人に



川原子ダム

より一向に改善されないことから、現在の底千しの対策をとつてい
る。付近には不伐の森